

# ふるさと奥尻通信

平成29年5月30日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

平成29年5月8日、「アヴローラおくしり」奥尻港出港。最後の雄姿となる。  
平成29年5月20日、「アヴローラおくしり」函館港中央埠頭よりフィリピンのセブ島へ向け出港。

## 特集 カランセ奥尻就航

5月1日の奥尻-江差便より待望の新造船「カランセ奥尻」が就航しました。18年ぶりとなる新船に、安定した離島航路実現へ向けて町民の期待は高まっています。

4月下旬より奥尻港内で準備していた同船は、出港前に就航セレモニーを行い、船会社の髙井孝典社長、新村奥尻町長らがテープカットしました。「乗客の信頼を得られる船を目指したい」という社長の挨拶にも熱意がこもっており、集まった町民らは期待のまなざしで見送りました。

髙井社長が命名したという「カランセ」は、奥尻島内に自生するラン科の植物である、オクシリエビネの学名「calanthe Puberula Lindl.var.okushirensis」から一部とったもので、薄紫色の可憐な花を咲かせます。レッドデータブックに「情報不足」と記載される希少種となっており、その生息地は秘匿されています。島内で一般的に見られるナツエビネの亜種で、その違いは、葉の裏にうぶ毛状の毛羽立ちがあるものとされています。ただ、その年によって毛の有無が違う場合があることから、一般には判別し難く、専門家の眼力が必要です。



来島者に振る舞われたアワビ煮つけ



めでたいのでモチまき

新船の特徴は、先ず船体の全長が伸びて大型化し、総トン数も3600トン級になりました。甲板も増えて6層になり、艦橋から見る眺望も見通しが効きます。内部は、バリアフリー化のためにエレベーターを設置し、2等優先席、オーシャンビューの1等指定席、キッズルーム、ベビールーム、レディースルーム、ペトルームなどを備えています。奥尻航路の船も、フェリー化、大型化を経て、快適さを求める時代に対応することになった訳です。

同船の最大の特徴は、「フィンスタビライザー」という横揺れ防止装置を装備したことです。船は正面から来る波には強いのですが、斜めや横から来る波には弱く、大きな揺れが生じます。波高が高いほど、揺れは大きくなり、個人差があるものの、やはり船酔いは苦しいものです。その横揺れを軽減してくれるのがこの装置なのです。両側から羽が生えたように可動式のフィンが出る仕組みです。早速、乗客からも横揺れが軽減されたように感じるとの声が聞かれました。

1日の就航イベントでは、早朝の奥尻発の乗客に紅白もちが手渡され、瀬棚港より来島した観光客に対しては、島の名産品であるアワビの煮つけや奥尻ワインなどが振る舞われ、抽選会では島の特産品が気前よくプレゼントされていました。これからの観光シーズン、新造船で行く奥尻観光ツアーの集客に期待です。ちなみに5月のフェリー利用者数は前年度同月比616人のプラスとなっています。

### 【要目】

総トン数3650トン、全長87m、幅15m、深さ9.6m  
主機関ダイハツ6DKM-28e、2基2軸  
試運転最大速力18.7ノット以上、航海速力17.1ノット



平成29年1月27日 第194番船 3,650総トン型旅客船兼自動車船「カランセ奥尻」命名・進水記念 内海造船株式会社

命名・進水記念 平成29年1月27日 広島県尾道市



就航セレモニーの様子 5月1日 奥尻港



瀬棚ー奥尻第1便の奥尻入港 5月1日



これが噂のフィンスタビライザー



もやいは銃で飛ばします



道南・東北地方の本マグロと言えば、日本海の松前沖、津軽海峡の戸井沖、大間沖が有名です。近年では、年末の大間マグロの一本釣り漁師のテレビ特番や、築地の初セリ価格が暴騰して話題になったりもしました。奥尻のマグロ(鮪)漁の記録は少なく、古い方では大正7年(1918)の漁獲高に産額4,800㍻、価額3,600円、同8年に1,500㍻、1,500円、同9年に7,500㍻、15,000円。水産加工高では、大正7年に塩鮪の製造量120㍻、価額96円と記述があるばかりです。その後、昭和10~15年までに年間2,000㍻~5,000㍻の収量があったようです。この写真は、昭和初期~10年代に撮られたものでしょう。現在、奥尻ではマグロ漁は行われておらず、ゴンタマグロと呼んでいる幼魚が稀に獲れるぐらいです。写真提供:松江田原家

アフロ記者が記者として書いてきたこと。退職したからこそ書けたこと。稲垣えみ子



アフロ記者が記者として書いてきたこと。退職したからこそ書けたこと。

稲垣えみ子

学芸員オスメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

はたして冷蔵庫なし、洗濯機なし、暖房なしの生活が成り立つのか？筆者曰く、十分に成り立つのだそうです。北海道では無理だと思いますが。月の電気代が200円弱ですって！元新聞記者が綴る興味深いけど真似したくはない日々。他、記者時代のコラム等も収録。アフロ記者で名を馳せた稲垣女史の真骨頂。※編集子とは姻戚関係はありません。

月刊 奥尻のつり 5月号

今年の奥尻はソイが当たり年のようです。5月3、4日開催の第10回奥尻島春の釣りフェスティバルでは、屏風立岩で49cm、北国岬で47cm、5日にはペンキ岩で51.5cm、13日にはホヤ石付近の岩場で50cmのクロゾイがあがっています。春のうちから50cmオーバーが連発しているの、徐々に60cm(ロクマル)が出るでしょう。と思っていたら、やはり出ました！20日に屏風立岩で60cmジャストの大型クロゾイが釣れたとのこと。いづれも西海岸ですが、この様子なら秋冬は東海岸でもチャンスがありそうです。今月は週末になると天気がよろしくない、サラリーマンにはストレスの溜まる釣りになっております。一方、上りのブリが好調、アングラーはサクラマスから継続してブリ狙いに移行中です。ほかにサーフでヒラメもちらほら。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つけ1ヶ月 第21回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

たの買年様は久を かか張け昨はもい  
 。上の学だ査雄や学せら っる日鳥大た朝 七月  
 を号校。関川一校て汽たどの賊し。起 月二  
 小今だそだ端ての茶船り。休った鳥き 十  
 鳥高。うと春い運津が木飯んけ低賊た 五  
 がくうだい吉た動に汽をもだにく乾ら 日  
 低響ん俺うの。場入笛立喰分出なし雨 一  
 くいとも二指でっててもるっには 土  
 飛たや卒で人導青て太たりふにて外止 曜  
 る業一だ員年來くり鳥ん良いへん 日  
 で俺ぞす生。は達た海し賊ばいた出で 日  
 逃達。れ懸三、が。面た縄っぞ。た晴 一  
 げの指ば命十三教 に。をて。今られ 日  
 頭導青の日上練 響沖 釣 日波て

な産瓶たく期期でと自さな  
 つ品のよ、と待、杜己れつ十九  
 てと出う洪しさ今氏評また九日  
 いし荷でみてれ年が価し地日、  
 まて量すのはまの言でた酒、  
 す持を。なトし酒つ八。今年で  
 。増今いゲたはて〇昨奥尻で  
 しや期味ト。どい点年尻一三  
 やしはわゲ新うた台度一三年  
 す、いし酒かそだのが酒披目  
 くお四だくのうっ酒披目  
 土合つな時と たは露と

新酒おひろめ三年目



学芸員の説明を聞く参加児童

た土に前のすりり文器度学擦ス  
 。史触の実るや、化と末習文ク二  
 になア物企す学財骨に会人十日  
 親てワや画く芸に角、がのル日、  
 しもビ貝で当員な器青開生第二  
 んらの塚す時がつが苗か活二奥  
 でい殻か。の小た北遺れ文回尻  
 もななら当文中こ海跡ま化目チ  
 らがど出日化高と道出しにとヤ  
 いらをたはを生も指の土た触て  
 ま、実千土解にあ指の。れて、  
 し郷際年器説解 定土年る、ジ

サツモンジンってなに？

なう幹主心長一で孝ば両  
 あか、に言はな館影族？まを親G  
 とそ乗。無ので一肖途し連勤W  
 妙うつ生用で撮の像中。た。務の  
 にいたまで、影心を、せ東代休  
 感うとれすしの配撮函せ館め北休  
 慨人いてよばおもり、のてへ使  
 深もう初ら客なこ写もを、  
 いる。てはそん。れ真のを、  
 よそ新館のはで館親延

新衣之記録(編集後記)

一のめた見跡一財イ参になり  
 ホ食ら後学一宮でド加移どツ十  
 ツ堂かは。青津あのし住でア四  
 ケでと、ワ苗弁の、まして年が  
 すはなガイ砂天、鍋内。た新催三  
 り、りイナ丘宮一町た。き度開第三  
 身地、ドリ遺。鍋内。た新催第三  
 汁元賽の一跡や釣の学方たさ回  
 一名の口で。道岩指芸々これの  
 を。物河調試な指。定員が奥尻転め  
 の原も飲ど定、文の多尻転め  
 祭なしを史 化ガ数島勤ぐ

岬めぐりツアー開催



カランセ奥尻就航記念のフラッグ